

功 績 概 要

○石田昇三（元 四日市市立博物館協議会委員長）

平成5年の四日市市立博物館の開館以来、四日市市立博物館協議会委員を務め、2期目の平成7年6月からは同委員長に就任し、平成29年5月に退任するまでの長きにわたって、博物館の運営に多大なる貢献をしてきた。総合博物館としての特徴を踏まえ、氏の持つ人文科学や自然科学の両面にわたる専門的な知見や豊かな経験を活かし、博物館が市民に親しまれる社会教育施設として定着されるべく、的確な指導や助言を行ってきた。

特に、博物館の行動目標とする「四日市市立博物館の使命（基本理念）」の策定に尽力するとともに、来館者層の幅を広げるために常設展示および特別展示の中学生以下の観覧料の無料化に向けて助言を行い、現在に至っている。

また、「四日市公害と環境未来館」の当博物館への併設に合わせて、常設展示およびプラネタリウムの全面改修を行い、平成27年3月にリニューアルを実施している。このリニューアル時においては、新たな展示方法の導入など施設整備についても積極的に取り組み、さらに、四日市公害と環境未来館の併設に至っては、前身の「(仮称) 公害に関する資料館」検討委員会委員として、博物館との展示連携について強い指導力を発揮した。

プラネタリウムの全面改修においては、氏が協議会から選出され委員となった「プラネタリウムリニューアル検討委員会」がまとめた「新プラネタリウムの考え方」に基づき、世界最先端のプラネタリウム投影機器等を導入することができた。リニューアルを経て、現在の四日市市立博物館が市内外や海外からも大勢の来館者を迎え、展示内容やプラネタリウム投影について好評を博しているのも、氏の博物館協議会委員長としての貢献によるところが多大である。

また、地域における社会教育活動として、氏は昭和44年に四日市自然保護推進委員会を設立し、おおよそ半世紀の長きにわたり、年間10回の自然観察会や自然の調査を行う中で、多くの市民が自然に触れ合う機会を提供してきた。特に、感性や知性、豊かな創造性を身に付ける上で、子どもの頃の自然体験を大変重要とする視点で、「四日市の身近な自然調べ」として小学生以下の子どもを対象に年間10回程度の観察会を実施するなど、四日市市の社会教育活動に多大な貢献をしている。

○吉田佳知子（現 南伊勢町社会教育委員）

昭和63年4月から平成17年3月まで古和浦婦人会長として、平成4年4月からは南島町連合婦人会長として、各地区の婦人会の会長をまとめ、活動を展開した。

市町村合併後は南伊勢町婦人会長として旧町の婦人会組織をひとつの形にし、組織運営等多大な尽力に努めた。

社会教育委員としては平成5年4月から現在まで、社会教育の助言、婦人会会長としての視点で積極的な提言を行うとともに、長年にわたり、行政と地域とのパイプ役として、町の社会教育の振興に多大な貢献をした。

婦人会や社会教育委員としての氏の姿勢は、多くの住民が信望を寄せるところであった。

また、婦人会活動については町の総合防災訓練における炊き出し支援や地域のまつりなどにおける南伊勢町婦人会日赤奉仕団としての活動に南伊勢町婦人会として積極的に協力するとともに、女性教育の浸透に力を発揮した。